

株 主 の 皆 様 へ

2015 新春号



鋼線の総合メーカー(新日鐵住金グループ)



鈴木金属工業株式会社

証券コード:5657

グループの強みに磨きをかけ さらなる企業成長と プレゼンスの向上を 目指します

鈴木金属工業(株)
代表取締役社長

柴田 真之



新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年の世界経済は、米国経済の安定した成長や欧州経済の持ち直しにより、日本経済の回復の足取りは重かったものの、総じて堅調に推移しました。

当社グループは、昨年明けの1月に、英国異形鋼線メーカー KTS Wire Limited. (KTS社) を買収、さらに中国の自動車分野向け製品の生産能力増強を決定するなど海外生産拠点の拡充を図る一方、習志野工場における第一期の生産設備リフレッシュ・新鋭化を計画どおりに完了し、国内外の生産構造改革を着実に進めてまいりました。

グループ業績につきましては、引き続き好調な欧州子会社の販売が寄与した結果、平成27年3月期第2四半期連結累計期間の売上高は、301億3千4百万円、経常利益は、14億8千5百万円となりました。また、年度通期予想につきましては、既公表のとおり、売上

高600億円、経常利益30億円（対前期増収・増益）を見込んでおります。

本年の世界経済は、欧州の政治情勢や中国経済の減速など、一部に景気を下押しするリスクはあるものの先進国を中心に緩やかな拡大を続ける見通しです。日本経済は、消費税率引き上げによる影響が収束していく一方、原油価格の下落もあり、緩やかな回復を迎えることが期待されます。こうした中、当社グループは、国内外マーケットの動きを絶えず注視し、その要求に迅速・的確に対応できる柔軟な体制を整えるべく、必要な経営資源の投入に加え、グループ会社との人的・技術的「横連携」と素材メーカーとの「縦連携」（ ※裏面「最近の主要ニュース」参照）をより一層強化し、シェアの維持・拡大に努めるとともに、新分野の開拓による利益の源泉の多様化を積極的に推進し、企業価値向上と確実な利益確保に注力してまいり所存です。当社グループのプレゼンス向上を目指し、本年は以下の課題に取り組みます。

1. グローバル事業構造の深化・発展

世界の自動車市場は、競争が一層熾烈さを増しながらも、確実に拡大を続けます。この動きに呼応すべく、当社グループは積極果断に経営資源を投入し、需要を捕捉してまいります。本年以降も、習志野工場と海外の各製造拠点において、自動車分野向け製品の生産能力向上施策を強力に推進するとともに、Suzuki Garphyttan社（SG社）蘇州やサウスベンドに習志野工場で磨いた製造技術・ノウハウの移植を図り、お客様からの要請に応えることで、欧州・日系トランスプラント向けの販売拡大に努めます。さらに自動車エンジンの小型高出力化等の動きに対し、ニーズに応じた適切な製品を提供してまいります。また、東南アジアマーケットにおいては、既にThai Special Wire Co.,Ltd.（TSW社）に高級ばね用生産設備を導入し、高付加価値化を鋭意推進中ではありますが、今後さらなる展開を検討するなど、グローバルマーケットにおけるポジションをより確固たるものとする所存です。

2. 国内事業基盤の弛まぬ強化

昨年は、グループの主力工場である習志野工場において、当初の計画どおり、第一期リフレッシュが完了いたしました。本年からは第二期リフレッシュを計画しており、長年の課題であった酸洗設備の新鋭化やPC工場製造ラインの生産性向上対策、特線工場の能力増強を実行する予定です。ステンレス事業（鈴木住電ステンレス）のリフレッシュ工事も本格化します。これまで蓄積してきた技術と最新技術を結集し、グループの中核（マザー）工場に相応しい体制を構築します。

商品開発面では、高強度ばね材の開発、超極細線・

医療用特殊ワイヤの開発など、当社の強みである素材からの一気通貫での技術開発や当社固有の熱処理・伸線技術・めっき技術を基盤とした特色のある製品を絶え間なくマーケットに提供してまいります。そのための技術戦力の強化も着実に進めてきております。

当社グループが製造業として全てのステークホルダーに信頼いただくためには、コンプライアンス・内部統制活動の継続的な改善、グローバルな視野での環境への配慮、地域と共生する活動の継続、安全な職場づくりが基本となります。

また、企業の成長を実現する上での基礎となる「人材（財）」の育成につきましては、“もの造り＝ひと造り”の考えのもと、研修施策の充実や人的交流の拡大を継続・推進しておりますが、「愚直・地道・徹底」をスローガンに、逆境をチャンスに変えることができる心身ともにタフな人材を育成してまいりる所存です。

技術の進歩により、製造業の世界では、年々数多くの新製品が開発されております。また、製造設備・方法も年々進化しております。当社グループが製造業として、このような変化の激しい時代を勝ち抜いていくためには、現場力・品質管理力・お客様へのソリューション提案力を絶えず磨き続けるしかなく、またこれらの「総和」がブランド力であると考えております。先人が長年かけて積み上げてきたこのブランド力をさらに強化し、次の世代に伝えてまいります。

この一年が皆様にとって、健康で明るい年となりますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。

英国の異形鋼線メーカー「KTS Wire Limited.」を買収・子会社化しました

(平成26年1月)

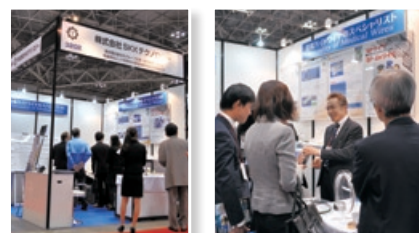
当社は、グループ企業のSG社を通じ、英国異形鋼線メーカーKTS社を買収・子会社化しました。KTS社は、英国ウエストヨークシャー州リーズ市に拠点を置く異形鋼線メーカーで、売上げ規模は年間約10億円、自動車用部品やベッド、家電、家庭用品等幅広い用途に向けた異形鋼線の製造・販売を行っており、今後は技術・販売面におけるシナジー効果が期待できます。



「MEDTEC JAPAN 2014」に出展しました

(平成26年4月9日～平成26年4月11日)

当社のグループ企業である(株)SKKテクノロジーが、東京ビッグサイトで開催された医療関係の大規模展示会「MEDTEC (メドテック) JAPAN 2014」に出展し、同社の誇る医療用ワイヤ製品をPRしました。医療向け展示会への出展は当社グループとして初めての試みです。極細線の製造技術を活かして医療分野の需要を開拓し、3年後を目処に同事業の売上規模を現在の3倍に伸ばす計画です。



新日鐵住金(株)棒線事業の新ブランド「SteelLinC」の運用を開始しました

(平成26年10月1日)

当社は、新日鐵住金(株)棒線事業部が立ち上げた棒線事業の新ブランドである「SteelLinC (スティーリンク)」の運用を開始しました。「SteelLinC」は、需要家との連携深化を主眼にした業界初の取り組みで、母材から加工メーカーまで含めた棒線事業を統一ブランド化することにより、お客様には、これまで以上に部品形状や加工法に適した商品を選択いただけるだけでなく、加工課題の解決促進や商品開発プロセスの短縮・効率化を実現いただけるようになります。

* 新日鐵住金(株)「SteelLinC」ウェブサイト <http://www.nssmc.com/steellinc>

株式事務の取扱いについて

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。 なお、未払配当金のみ、株式会社みずほ銀行本店および全国各支店でもお取扱いいたします。	単元未満の買取・買増以外の株式売買はできません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

鋼線の総合メーカー(新日鐵住金グループ)

 鈴木金属工業株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 丸の内中央ビル

URL <http://www.suzuki-metal.co.jp/>